

学校と地域との一体となった体験活動を通じた学びの場

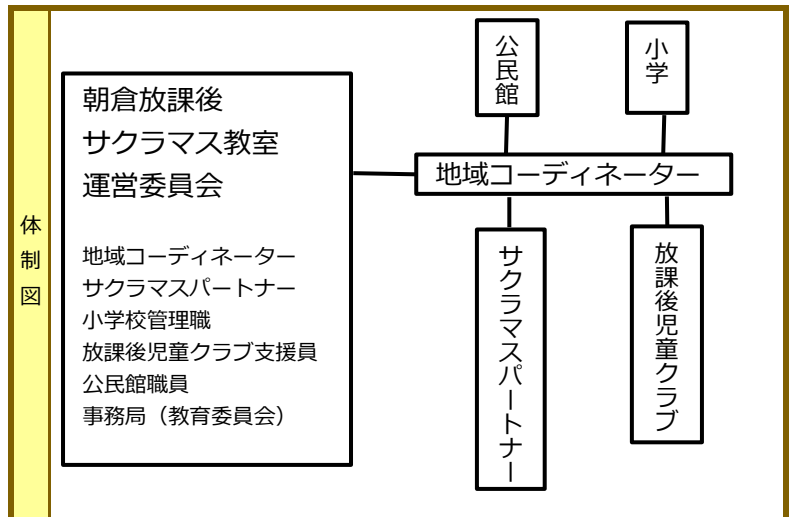
朝倉放課後サクラマス教室

市町村名	名称	関係する学校名
吉賀町	朝倉放課後サクラマス教室	朝倉小学校

小学校区の人口	666 人		小学校区の世帯数	321 世帯			
開始年度	平成 24 年度	関係 学校数	1 校	合計 学級数	5 学級	合計 児童・生徒数	25 人
活動内容	放課後支援	—	—	—	—	—	—

地域学校協働活動 推進員等配置人数	統括的な地域学校協働活動推進員	統括コーディネーター	地域学校協働活動推進員	地域コーディネーター	合計
(内訳)	0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
				地域住民	
ボランティア等数	登録人数(H30)		活動延べ人数(H30)		
	18 人		78 人		
学校区の協議会	名称	主な構成メンバー			人数
	朝倉放課後サクラマス教室運営委員会	地域コーディネーター、サクラマスパートナー、小学校管理職、放課後児童クラブ支援員、公民館職員			12 人

連絡先	吉賀町教育委員会
住所	〒 699 - 5513 鹿足郡吉賀町六日市 6 4 8
TEL	0856 - 77 - 1285
FAX	0856 - 77 - 0040
MAIL	kyoiku@town.yoshika.lg.jp
参考URL	



これまでの経緯

平成24年度から朝倉小学校の児童を対象に放課後子ども教室事業を開始した。運営委員は地域コーディネーター、サクラマスパートナー、小学校管理職、公民館職員で構成され、学校、地域が一体となって児童に対して体験活動を通じた学びの場づくりを進めている。平成28年度からは運営委員に放課後児童クラブ支援員も加わり、放課後児童クラブと一体とした体制が構築できている。

目的

- 児童の健全な成長のために地域が一体となって子育て支援に取り組む。
- 活動を通して、児童と地域住民のふれあい交流を図る。
- 体験活動を通じ、地域や文化を学ぶ

○活動の概要

(1) 特色ある仕組み・体制・機能

活動は月に1回、学校や家庭では経験がしにくいこと、今の子どもたちに経験してもらいたいことを中心にした内容で行っている。また、参加児童にとって充実した学びの場となるよう、教室のねらいの共有や活動の計画を立てるために、年度初め、1学期末、2学期末、年度終わりの年間4回運営委員会を開いている。学校、地域が一体となって児童に対して体験活動を通じた学びの場づくりを進めていくために、運営委員は地域コーディネーター、サクラマスパートナー、小学校管理職、放課後児童クラブ支援員、公民館職員で構成されている。

(2) 活動を実施する中で明らかになった解決すべき課題

①朝倉放課後サクラマス教室の活動において、学校の授業とのつながりを意識した内容の実施

地域の大人として児童に体験させたいことに合わせ、学校の授業を補う内容や発展させた内容を実施することで、学校、地域が一体となった活動にする必要がある。

②放課後子ども教室の性質に対する保護者の理解（放課後児童クラブとの違い）

多様な学びの場であり、地域の大人のと繋がりによって成り立っていること、保護者の協力が必要なことを周知する必要がある。

(3) 課題を解決するためのポイント

①運営委員会を綿密な打ち合わせや協議の場とする。

学校の指導する学習内容と地域の大人、参加児童の希望をすり合わせた上で活動の内容を協議することで、学校、地域が一体となった児童にとって充実した活動となるよう共通理解を図った。

②保護者に向けて趣旨の説明、理解促進の場を設ける。

年度初めのPTA総会にて、参加児童の募集に合わせ保護者に対して説明をし、朝倉放課後サクラマス教室に対する共通理解を図った。

③学校と保護者へ活動の様子を周知する。

活動ごとに活動の内容や活動に対する価値づけ、サクラマスパートナーの動き等を学校と保護者に対し通信にて発信した。

○活動を実施しての効果・成果

・児童が活動を通してサクラマスパートナーや地域の教育資源とたくさん触れ合うことで、児童から「朝倉放課後サクラマス教室が好きになったのは、地域のみなさまのおかげです。ありがとうございました。」「いろいろなことを教えてくださいありがとうございました。本当に地域の方は、『やさしいなあ』と、思いました。また朝倉放課後サクラマス教室をしたいです。」などという感想が聞かれ地域への愛着を感じられた。また、サクラマスパートナーにとっても児童と触れ合う機会となり「町内どこで会っても笑顔であいさつをしてくれる児童の顔がかわいくてたまりません。」「子供たちに名前を覚えてもらったり、道路ですれ違って手をふってくれたり、一緒に活動することで、うれしいことが増えました。」などという感想が聞かれ、地域の子供たちに対する愛着が醸成されていると感じた。

・学校の学習内容とのすり合わせをすることで、小学校で茶道を体験する学習があれば、それまで行っていた茶道体験をやめて他の活動に変えたり、川の生き物調査を小学校で行えば、その後、朝倉サクラマス放課後教室で川遊び&川の清掃活動を行ったりと、小学校で扱う内容との重なりを防ぐために活動の取捨選択、小学校の学びを深めるために学習した内容の発展、拡大した活動を組むことができた。

・生け花を体験する活動に合わせ、地域の介護施設や学校、公民館等の施設に児童が作った生け花をプレゼントする地域貢献意欲を育む内容も実施された。各施設での児童に対する感謝の意を表す言葉がけによって、児童の中に地域貢献をする喜びの気持ちを芽生えさせていた。これは、運営委員が長年の活動を続けて児童の様子を見続けてきたことと、協議を重ねることで、朝倉地域の子どもがどのように育ってほしいかということを共通認識している成果だと感じる。

○今後の方向性

これまで培ってきた価値を保ちつつ、これまで以上に、参加児童にとって朝倉放課後サクラマス教室が多様な人との出会いの場、多様な体験の場となるように、地域の関係団体とのネットワーク化を図ると共に活動の充実を図る。

○活動の様子



生け花を地域の介護施設に贈る



川遊び&川掃除